



現代中国研究センター設立15周年 連続セミナー

近現代中国研究の 最前線

9月8日
小野寺 史郎

9月15日
村上 衛

9月22日
都留 俊太郎

9月29日
石川 穎浩

対面・オンライン
併用開催

京大人文研の近現代中国研究の歴史

中国経済の特徴は何か —中国近代史から考える

台湾独立とは何か —ことばの歴史から考える

毛沢東と田中角栄の会談
—国交正常化50周年にあたって振り返る

各回とも 木曜日 18:00 - 19:30
人文研本館一階セミナー室1 または 四階大会議室

本シンポジウムは対面とZoomウェビナーを利用した
オンライン視聴を併用して実施します

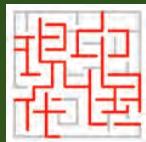
対面での参加を
希望される方

以下のアドレスまで氏名・イベント名を明記のうえご連絡ください。
z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp

*定員に達し次第、募集を締め切りますので予めご了承ください。

オンラインでの視聴を希望される方

左のQRコードまたは以下のリンクから事前登録をお願いいたします。
https://zoom.us/webinar/register/WN_07FslZfyQoq-jOg7qLvNw
*ご登録いただいたメールアドレスに追って視聴用URLが送付されます
ので、シンポジウム当日はそちらのURLにアクセスをお願いいたします。
なお、一度の事前登録で、4回のうちいずれの回もご視聴いただけます。



主催

京都大学人文科学研究所
京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター
お問い合わせ z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp
<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

近現代中国研究の最前線

1972年の日中国交正常化から50年の歳月が流れました。この半世紀の間、日中関係が大きく変貌するのに合わせて、人文科学研究所の中国研究もたゆまず深化しつづけてきました。2007年には、存在感を増す現代中国を対象とする現代中国研究センターが設立されました。

現代中国研究センター創立15周年を記念して行う本セミナーでは、センターの運営に携わってきた四人の専門家が、近現代中国研究の動向について、最新の知見を披露いたします。京大の中国近現代研究がたどってきた道のりに始まり、活気溢れる中国経済の原動力のありか、近年あらためて注目を浴びる台湾独立の言説、そして50年前の国交正常化の舞台裏にいたるまで、わかりやすく解説します。多様な顔をもつ中国に向き合い続けてきた日本の姿も、同時に浮かび上がることでしょう。

発表者略歴



小野寺 史郎 *Shiro ONODERA*

京都大学大学院人間・環境学研究科 准教授

専門 中国近現代史

主な著作 『国旗・国歌・國慶：ナショナリズムとシンボルの中国近代史』（東京大学出版会、2011年）
『中国ナショナリズム：民族と愛國の近現代史』（中公新書、2017年）
『戦後日本の中国觀：アジアと近代をめぐる葛藤』（中公選書、2021年）



村上 衛 *Ei MURAKAMI*

京都大学人文科学研究所 准教授

専門 中国近代社会経済史

主な著作 『海の近代中国：福建人の活動とイギリス・清朝』（名古屋大学出版会、2013年）
『近現代中国における社会経済制度の再編』（編著、京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、2016年）
『グローバル経済の歴史』（共編著、有斐閣、2020年）
『転換期中国における社会経済制度』（編著、京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、2021年）



都留 俊太郎 *Shuntaro TSURU*

京都大学人文科学研究所 助教

専門 台湾・中国近現代史

主な著作 『二林蔗農事件の背景の再検討：地域史からみた日本統治期台湾農民運動』（『歴史学研究』979、2019年）
『台湾語：王育徳における大衆と『チャンポン語』』（駒込武編『生活綴方で編む「戦後史」：〈冷戦〉と
〈越境〉の1950年代』岩波書店、2020年）



石川 稔浩 *Yoshihiro ISHIKAWA*

京都大学人文科学研究所 教授

専門 中国共産党史

主な著作 『中国共産党成立史』（岩波書店、2001年）
『革命とナショナリズム：1925-1945（シリーズ
中国近現代史3）』（岩波新書、2010年）
『赤い星は如何にして昇ったか』
（臨川書店、2016年）
『中国共産党、その百年』
（筑摩選書、2021年）

